

国内学会参加報告書

人間文化研究科 博士後期課程 複合現象科学専攻
放射線物理学研究室所属 1年 井上洋子

この度、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ-先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成-プログラムの支援を受け、8月22日(水)~24日(金)に東京工業大学百年記念館にて開催されました「原子衝突研究協会 第32回研究会」に参加し研究発表を行いました。

本研究会は、特別講演(60分)4つ、シンポジウム講演(40分)8つ、ポスター発表(180分)2つ、若手奨励賞受賞記念講演(60分)1つで構成されており、講演内容は「レーザー・放射光を用いた先端技術とその応用」というテーマに沿ったものでした。講演を聴講することで、レーザー・放射光を用いた研究テーマの多様性、欠点利点について知ることが出来ました。特に、レーザーを用いる際の問題となる「デブリ」を抑制するための研究発表は、今後機会があればレーザーを研究に取り入れたいと考えている私にとってとても参考になりました。また、若手奨励賞受賞記念講演では、研究の問題定義から解決まで研究の一連流れを見せていただきました。受賞者は博士論文のテーマで受賞されていたため、私が博士・投稿論文をまとめる際の見本として最良の講演でした。

ポスター発表で、私は「低速多価イオン二原子分子衝突における電荷移行反応と分子解離」という題目でショートプレゼンテーションとポスター発表を行いました。ポスター発表の内容は、高価数のイオンと二原子分子を衝突させた際、衝突速度によってどのような分子解離の反応が起こるか、という事についてまとめたものです。ポスター発表の際は他大学の学生の方々に、研究内容の詳細を尋ねられ、また、様々な質問を頂きました。逆に、私自身も他大学の学生のポスターを拝見し、研究内容に関して疑問に感じたことや将来的にどのような目標を持っているのか等尋ね、色々な意見・考え方に触れることが出来ました。本学には、共通する分野の院生がいないので、このように共通の分野に所属する学生と話をする機会を持てて非常に嬉しく思いました。

この度は、国内学会参加の為に「魅力ある大学院教育」イニシアティブ-先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成-プログラムより支援して頂きありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



写真：ポスター発表の様子